

私 書 箱

〒100-91  
東京都中央郵便局  
私書箱 916

# AA日本ニューズレター

AA 日本ゼネラル・サービス・オフィス内 広報委員会  
TEL03-590-5377 〒171 東京都豊島区池袋 2-1083 橘ビル 9F

# No.16

特別寄稿

## 外から見た日本のAA

フリージャーナリスト 鈴木 美保子

AA発祥の地アメリカでは来年(1990年)創設55周年、そして日本では15周年を迎えるという。何とも感慨深くなる数字ではないか!? 確実にH・P(ハイパーパワーのアノニミティを守るため、米国のある仲間たちはこう呼んでいる)のはたらきを感じずにはいられない。

AAと関わるようになって(いわゆる“つながって”)からここ数年、私は外国(主にアメリカ)と日本とに片足ずつ踏んばって、その両方をしかと見据えてきたような気がする。「12のステップ」は依存症者本人のみならず、それを受け入れる意志のある人なら誰もが応用できる、まさに生き方の指針だと、私は思っている。そして私自身、例にもれず、この「ステップ」に日々大いに支えられている者の一人だ。

多くの国でいろいろなミーティングに出てみて、じっくり考えさせられるようなことも多い。そんなことのいくつかをここで分かち合いたいと思う。そのひとつは、これだけ経済大国にのし上がった日本も、多くの外国人にはまだまだ東洋の神秘の国にとどまっていること。さすがにニューヨークでは言われないまでも、アメリカの田舎町に行くと、「へ、えー、日本人もアル中になるの?」とか「日本にもAAがあるの」などと言われて、辟易することがある。彼らの日本国像は、武士道や禅の修業のいきわたった、非常にスピリチュアルな文化をもつ国、というわけで、そんな霊性の高い国にはマクドナルドや酒の自動販売機があったりするはずがないのだ。「いやいや、この病気は人種や年収にはあんまりうるさくないみたいですよ」と答えるや、「でもAAのようなスピリチュアルなプログラムは、もともとスピリチュアルな日本人には受け入れ易いんじゃないかね」と傍らの善良そうな御婦人。この種の“美しき誤解”に鼻から「とんでもない!」と答えるわけにもいかず、私は四苦八苦しなながら国際親善と相互理解の進展に(?)努めるのだ。

その逆は、初めて日本にやってきた外国人の例。自国のテレビでは決してお目にかかれぬスターが、日本のCMでグラスを片手にクールなポーズをとったりしているのを見てまず驚く。そして仕事が終わった後につれ出された酒の席で、「まあまあ、やってくださいよ」とグラスになみなみと酒をつがれてまたびっくり。これは何かのインボウに違いないと思ったという。「日本の常識は世界の非常識」のいい例だ。

さらに同じ日本人の陥っているワナについて。「甘えの構造」にしっかりとハマっている日本人は、「甘え依存」が当然の社会生活。人間関係の在り方だと思っているから、知らぬ間に実に多くのものに依存している。配偶者、子ども、家族、恋人、会社...etc. etc...。恐ろしいほどの共依存の悪循環だ。本当の意味で自立、成熟した大人の自由人になんて、滅多にお目にかかれぬ。

断酒のシーンでもそのことがいえる。多くの日本人は手取り足取り指導され、人々の関心と哀れみを注がれて酒をやめたいのだ。だから「いっしょに頑張ってやめましょう」なんて言われるのかと思ってAAミーティングに出てみて、「酒を飲むのはあんたの勝手、やめるのは自由ですよ」なんて言われると、調子外れの気分になり、どうしていいのかわからなくなってしまうのだ。<もっと面倒みてもらいたいのに!>

そして回復が進むにつれ(H・Pに感謝!)、真の「自由」の厳しさをあらためて思い知ることになる。また、ソプラエティ、飲まない自由を選んだ代償としてのこのころの平安が何ものにも換え難いものであることも。

日本にもし世界に通用する常識があるとしたら、それはAAだと、私は思う。世界じゅうどこに行っても仲間がいる。私は先日、アフリカのジンバブエという国にひと月ほど滞在したのだが、ミーティングには必ず誰か仲間が車で拾いに来てくれた。黒い仲間たち、

1989年 AAスローガン決定

「 生 きた サ ー ビ ス . そ れ は . 愛 の お く り も の 」

白い仲間たち、そして私は黄色い女。皆んなAAの同じ「言葉」で解り合えるのが素晴らしい。

何千年もの間、どっぷりと甘えの構造の中に浸り切ってきた日本人にとって、AAという新しいパラダイム(規範)は極めて新しい体験。おそらくは黒船来航

以来の激しい意識の変換の機会ではなかったかと思う。そういう新しい世界の動きの先端を(本人が気付かぬまでも)時々ずっこけながらも着実に歩んでいるAAの仲間たちに、私は心から連帯の声を送りたくってしまうのだ。

## 専門家協力委員会から

関東サービス常任委員会の中からこのほど新しく誕生した「専門家協力委員会」は、その最初の試みとして、4月1日、『専門分野から要望を伺う集い』を開催した。これは関東周辺の各専門分野の方々に幅広い呼びかけを行い、AAに対する率直な要望や忌たんのない意見をこの場でAAに投げかけて戴き、それによって今後、専門分野とAAとが具体的にどう協力関係を結んでいけるかを探る、まず最初の足がかりにしようというものであった。

当日は、病院、保健所、福祉事務所、児童相談所、薬物依存症者の施設、ア症者の施設の専門家、ジャーナリスト、別の自助グループからの参加もあり、AAに対して日頃感じておられる要望について活発に意見が交換された。それを以下にまとめてみたい。

- A. ミーティングの内容に対して
  - 1. ヤング向け、高齢者向け、女性向け等バラエティに富んだ内容のミーティングを
  - 2. 時間帯もバラエティを持たせて
  - 3. 引きつける魅力に欠ける
  - 4. 暗い
- B. 新しい人の迎え方について
  - 1. 迎え方がへた
  - 2. 新しい人が次にもまた行ってみたいくなるような雰囲気づくりを
  - 3. 正常飲酒と病気との「中間層」の人も受け入れられるAAに
- C. アラノンとの協力体制を
  - 1. 家族がアラノンと出会うチャンスをAAを通しても持てるように

- D. 専門機関との協力体制について
  - 1. 専門機関の利用のしかたがへた
  - 2. 具体的にどういう協力が結べるのか
  - 3. 当委員会の今後の方向性について
  - 4. AAは秘密結社のイメージがあり専門家がどこまで入れるか、関わられるか不安
  - 5. 専門家が参加しやすいオープンな場をもっと多く
  - 6. 専門家が本人をAAに効率よくつなげるには
- E. その他
  - 1. AA内で使用しているアルコール中毒という名称は時代に即さない
  - 2. 出席証明の印鑑の問題

以上のような問題を、AA側では地区幹事集会やサービスフォーラムでの検討課題とし、そこでまとめられた意見を持って次回の『専門家との集い』を開催する予定である。このように、どちらかの側の意見の一方通行だけで終わらせることなく、当委員会が専門分野とAA側とのパイプ役となって、継続的にコミュニケーションをはかっていくことを当面の目標にして活動を続けていくつもりである。

+ + + + +

専門分野の皆さま、私たちはいつでもオープンに皆さまからのご意見を吸収し、健全な協力関係を常に保っていきたいと考えています。次回の『集い』(9月開催予定)でも多数の方々にご参加戴き、率直なご意見を伺えますことを心から願っています。

### <小冊子の紹介>



全国ルーツで出されているもの

- ・BOX 916
- ・ニューズレター

各地域で出されているもの

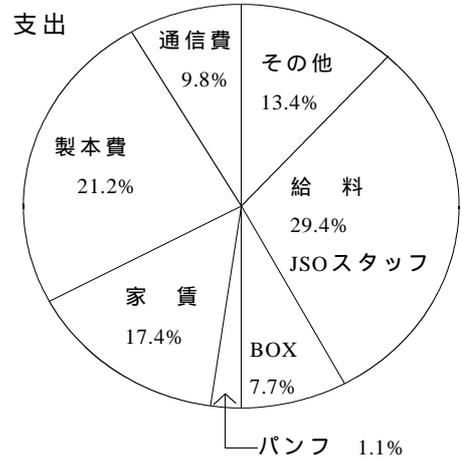
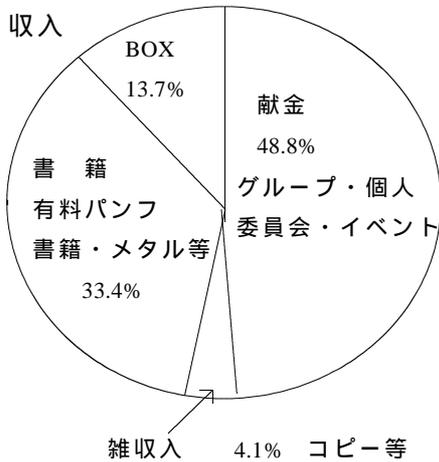
- ・55長崎 [九州地域]
- ・AA鹿児島ニュース [九州地域]
- ・あおしんごう [関西地域]
- ・海風(そよかぜ)だより [神奈川地区]

# 献金の使われ方

## J S O 収入・支出のあらまし

1988年12月31日付けの決算報告書は、すでにオフィス幹事会より発行、頒布されていますが、

専門的で分かりにくいと、図解して欲しいとの声が大きく、別表の通りグラフ化してみました。



AA に対しての機能の充実と拡大が、アルコール依存症の分野でますます望まれています。献金によってのみ、私たちの活動は支えられています。

『お金のある人はお金を、時間にゆとりのある人は時間を、能力のある人はその能力を AA 全体のために役立たせる、これが AA の活動の基礎です』

## ぐるーぷ べり



### 浦和グループ

浦和グループはハイパーパワーの力により、伝統ある大宮グループの草分けとして、平成元年5月10日、埼玉県県庁の所在地である浦和に産声をあげることができました。他に埼玉地区では、川越、春日部、幸手、所沢の各グループがあります。

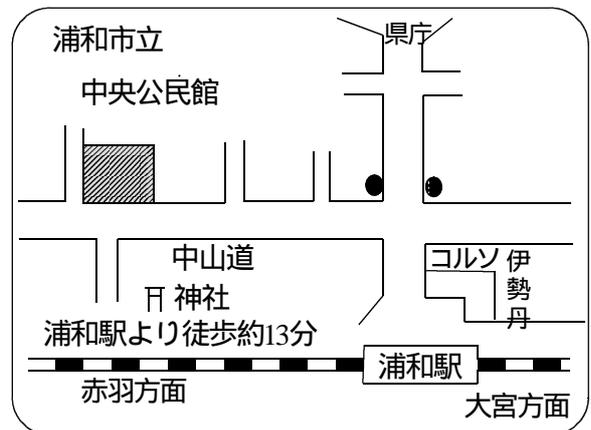
浦和グループは毎週水曜日7時より8時30分のオープン・ミ・ティング方式で始まりました。

まだまだ母乳すら飲む事のできない目の開かない赤子のようにありますが、手探りの中で仲間と共に今日一日のプログラムの実践と、まだ見ぬ未来の仲間へのメッセージを送り続けたいと思っています。

できるまでには幾多の問題はありましたが、数多くの仲間の手助けをいただき、今日という日を迎えられました。また、オープンの当日は、数多くのメンバーや関係者の方々と一緒に第一回目のミーティングを開

くことができ、心から感謝しています。本当にありがとうございました。これからも多くの仲間の力と関係者の方々のご理解をよろしくお願い申し上げます。

埼玉は遠いと言わず、大勢の仲間の御参加をお待ちしています。



## パブリック・ミーティング 「私とAA」

「新設されたアルコール病棟で働くことになった看護婦ですが、アルコールの人に会うのも初めてなので、どうしたら良いかわかりません。今のところDr.の言われるとおりにやっていますが、今日ここでいろいろな方のお話を聴き、どう対処していったら良いかわからなくなりました。教えて欲しい。」

「特別養護老人ホームの指導員です。私の所にも依存症者が4人居ますが、お酒の問題をどうしたら良いのか困っています。老人ホームも最近では開けてきており、皆でお酒を楽しむ機会も多くなっていますが、年令も考えると、一概に飲ませないというのかわいそうで、どうしたら良いのか...。」

5月19日(金)東京飯田橋で開かれた「パブリック・ミーティング」の席上でこんな話が聴かれました。

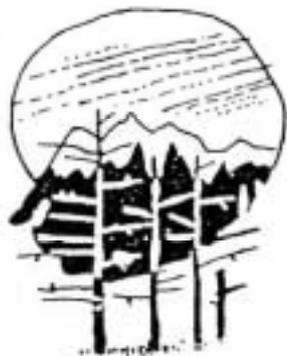
このミーティングは、いろいろな分野で働かされている多くの関係者の方々に、AAについてよく理解していただき、相互の協力関係を具体的な形で深めて行くことを目的として、サービス常任委員会が主催したものです。当日は、関係者の方48名を含め全体で80名以上の方が参加しました。

午前中は、メンバーによる「ステップ」「伝統」「AAの現状」についての話、午後には施設指導員の村田さん、市民の会の今成さん、専門医で大学教授の根本さんという3人の関係者の方々のお話と、メンバーおよび関係者各2名ずつをパネラーとしたディスカッション・ミーティングが行われました。

初めての試みでもあり、主催者もスピーカーも、また参加者も皆手さぐりの状態であったため、果して成功したといえるかどうか、はっきりとしたことはわかりません。同じメンバーの話でも、自分の経験をもとに話した人、AAの活動内容の説明に的をしばって話された人と様々でしたし、関係者の方々のお話も、長い間の経験の積み重ねからいろいろな人の存在それ自体をありのままに受け容れ、価値あるものと考えられるようになったという方、AAではできない形の広報活動を積極的に展開している中で、回復者の姿を直接見て貰うことの必要性を痛感したという方、医師の立場から、AAにつながるか否かの分岐点の解明に今でも頭を悩ませていると話された方と三者三様でした。

しかし、平日に実施したことで、これまでのAAの集まりにあまり関心がなかったり、日程の都合などで参加いただけなかった人達の出席も見られ、当初の目的の一部は達成できたものと思います。最後のパネルDでは、メンバーの人の質問に多くの時間が取られるなど、当初の目的から外れた流れも見られ、出席メンバーに対して注意がなされるといった一幕も見られ、今後の開催にあたっては、より十分な準備の必要性が感じられました。

## 長野 83 秋季 AA 関東甲信越ラウンドアップ



信州の秋は紅葉狩り、りんご狩りと楽しさいっぱい！ 遊んだ後は温泉で一休み。

“仲間と共に信州の秋を過ごしませんか”

開催日 1989年11月3～5日(金～日曜日)

場所 信州 戸倉上山田温泉「白鳥閣」

\*費用、その他については検討中ですので、後日お知らせ致します。

89 関東甲信越ラウンドアップ準備委員会

## J S O 住居表示変更のお知らせ

平成元年8月14日から、J S O周辺の住居表示が変わり、以下のような新住所となります。よろしくお願ひ申し上げます。

実施前	東京都豊島区池袋 2-1083 橘ビル 9F
実施後	東京都豊島区池袋 2-23-3 橘ビル 9F
実施日	平成元年8月14日